

船舶事故等調査報告書

平成23年2月24日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第171号	
事故等種類	運航阻害	
発生日時	平成22年10月26日（火） 08時00分ごろ	
発生場所	福岡県 ^{むなかた} 宗像市泊港南東方沖、宗像市鐘崎港西防波堤灯台から真方位30° 1.44海里付近 (概位 北緯33° 53.74′ 東経130° 30.18′)	
事故等調査の経過	平成22年11月5日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 旅客船 ニューじのしま、55トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 136850、宗像市</p> <p>乗組員等に関する情報 機関長、五級海技士（機関）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 なし</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか1人が乗り組み、旅客16人を乗せ、泊港南東方沖を航行中、平成22年10月26日08時00分ごろ、右舷主機の回転数が1,000rpm以上に上昇しなくなった。</p> <p>本船は、左舷主機で航行し、旅客全員を泊港で下船させた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 雨、風向 北西、風力 5、視界 良好</p> <p>海象：波高 約1m</p>	
その他の事項	<p>主機は、増速操作時、過給機による給気圧力が上昇するまで、ガバナ付属機器（ブーストコンペンセータ）が、ガバナの出力（燃料噴射量）を抑え、黒煙の発生を抑えるようになっていた。</p> <p>主機は、連続最大回転数が2,040rpmで、常用回転数が1,500rpmであった。</p> <p>右舷主機のガバナ本体には、異常が認められなかった。</p> <p>右舷主機のガバナ付属機器は、内部に大量の錆が発生しており、ダイヤフラムが硬化してガバナの出力を抑制した状態になっていた。</p> <p>本船は、主機のガバナ本体及び付属機器の開放点検を実施していなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、泊港南東方沖を航行中、右舷主機のガバナ付属機器内のダイヤフラムが経年劣化で硬化して作動不良を起こしたため、ガバナの動作が阻害され、増速できなくなったものと考えられる。</p>
原因	本インシデントは、本船が、泊港南東方沖を航行中、右舷主機ガバナ付属機器内のダイヤフラムが経年劣化で硬化して作動不良を起こしたため、ガバナの動作が阻害され、右舷主機が増速できなくなったことにより発生	

	したものと考えられる。
--	-------------